

第1回 鳴門市地域公共交通活性化協議会

議事録

日時：令和4年6月7日（火）14:00～15:00

場所：うずしお会館2階 第2会議室

出席者名簿

【敬称略】

所属	氏名	区分	備考
徳島県東部県土整備局鳴門庁舎副局長	秋田 裕二	道路管理者 港湾管理者	監事
徳島バス（株）営業部副部長	東 孝行	公共交通事業者等	
国土交通省四国運輸局徳島運輸支局首席運輸企画専門官	賀出 晴美	その他鳴門市が必要と認める者	欠席
鳴門市幼小中PTA連合会長	樺山 賢太郎	公共交通利用者	欠席
国土交通省四国地方整備局徳島河川国道事務所徳島国道出張所長	萱原 一朗	道路管理者 港湾管理者	
鳴門市政策監	小泉 憲司	鳴門市	
徳島県鳴門警察署交通課長	住友 貴志	公安委員会	欠席
鳴門市副市長	谷 重幸	鳴門市	会長
鳴門市自治振興連合会監事	田村 豊	公共交通利用者	
徳島県タクシー協会（鳴門第一タクシー（有）代表取締役）	長尾 春代	公共交通事業者等	
（一社）徳島県バス協会専務理事	長谷部 一喜	公共交通事業者等	
鳴門市社会福祉協議会長	藤村 松男	公共交通利用者	
鳴門市老人クラブ連合会副会長	前田 ユキ子	公共交通利用者	
徳島バス労働組合委員長	松本 忠宏	公共交通事業者等	欠席
徳島県県土整備部次世代交通課課長補佐	宮島 崇	その他鳴門市が必要と認める者	監事
徳島大学大学院教授	山中 英生	学識経験者	副会長
国土交通省四国運輸局徳島運輸支局首席運輸企画専門官	山本 美恵子	その他鳴門市が必要と認める者	
国土交通省四国運輸局交通政策部交通企画課課長	手嶋 一了	要綱第8条第5項の規定に基づく出席者	オブザーバー

委員会概要

【敬称略】

1. 開会
2. 委員紹介
3. 会長あいさつ
4. 議事
 - (1) 鳴門市地域公共交通計画の策定について
 - (2) 鳴門市の公共交通の現状について
 - (3) 計画策定に係る各種調査について
5. その他
6. 閉会



議 事 要 旨

14 時 00 分 開会

<p>1. 開会 鳴門市 企画総務部 戦略企画課より開会挨拶 ※事務局（鳴門市 企画総務部 戦略企画課）より配布資料の確認</p>	
発言者	要 旨
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・令和 4 年度第 1 回鳴門市地域公共交通活性化協議会の方を開催したいと思いをします。
<p>2. 委員紹介 ※事務局より委員の紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国土交通省 四国運輸局 徳島運輸支局 首席運輸企画専門官 賀出晴美が欠席 ・鳴門市 幼小中 PTA 連合会長 樺山賢太郎が欠席 ・徳島県 鳴門警察署 交通課長 住友貴志が欠席 ・徳島バス労働組合 委員長 松本忠弘が欠席 	
<p>3. 会長あいさつ 鳴門市 谷副市長より挨拶</p>	
発言者	要 旨
谷会長	<ul style="list-style-type: none"> ・本日は、令和 4 年度第 1 回鳴門市地域公共交通活性化協議会の開催をご案内いたしましたところ、委員の皆様方におかれましてはお忙しい中、お集まりをいただきまして誠にありがとうございます。 ・本市では、平成 22 年 3 月に策定した鳴門市地域公共交通総合連携計画に基づきまして、公共交通の確保、維持に取り組んで参りましたが、地域公共交通を取り巻く情勢は、人口減少、少子高齢化の進展、自家用車の普及など、社会情勢に伴う継続的な利用者の減少や、慢性的な人手不足による乗務員の不足、さらには、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴いまして利用者の減少など、非常に厳しい状況となっております。 ・このような状況の中、令和 2 年度には、地域公共交通の活性化及び再生に関する法律が改正され、地域公共交通計画の作成が努力義務化されたことを受けまして、本市におきましても、令和 5 年度を計画の始まりとする鳴門市地域公共交通計画を今年度中に策定することとしております。 ・本協議会は、地域公共交通計画の策定、作成及び実施に関し、必要な協議を行うための会でございますので、委員の皆様方におかれましては、本市の地域公共交通の将来を定める計画の策定に関しまして、将来的な長期的な展望に立った観点から、ご意見、ご提言をいかに賜り、よりよい計画に導いていただきますよう、活発なご審議をお願いしたいと

	<p>思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域公共交通計画の審議に当たりまして、今後も数回の会議が予定されております。委員の皆様方には大変お忙しい中とは存じますが、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。
--	---

<p>4. 議事</p> <p>(1) 鳴門市地域公共交通計画の策定について</p> <p>※事務局より説明(略)</p> <p>※質疑応答なし</p>	
<p>(2) 鳴門市の公共交通の現状について</p> <p>※事務局より説明(略)</p>	
<p>発言者</p>	<p>要 旨</p>
<p>山中副会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資料 3、6 ページのアンケートの結果について、⑪公共交通（バス停）の利用と⑫公共交通（駅）の利用の内容に関して、「徒歩や自転車で移動できる」と「自動車やタクシーでなければ移動できない」の2つは分かるが、「バスを利用している」、「鉄道を利用している」という回答はどういうことでしょうか。バスを使うときにバスを利用しているということでしょうか。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・最終的な目的地に行くためにバスを途中で利用しているとお答えいただいている方が多いのではないかと考えておりましたが、詳細の部分は確認できておりません。
<p>山中副会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・回答者の中に勘違いしておられる方がいらっしゃる気がします。バス停へ行くのにバスに乗る人はいないと思いますので、駅へ行くのに駅のバス停で降車し、その際の交通手段としてバスと答えられていると思いますので気をつけて集計を見ていただければと思います。
<p>手嶋オブザーバー</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通の現状については現段階での総合的な内容が出ていないかと思っております。徳島県で作成いただいている地域公共交通計画の方針も踏まえながら、事業者路線とミクロな交通モードも含めてご検討いただく方向になりそうで安心しております。 ・資料 3、3 ページに JR との並行路線の再編候補が挙げられていますが、協議会メンバーに JR さんが入っていないと思います。ご都合がつけば、オブザーバー等で是非呼んでいただけるとよいと思います。 ・鉄道サービスについては、JR 四国さんが線別収支や営業計数について公表されている中で、鳴門線は地域旅客運送サービスに限りなく近い

交通モードだと思いますので、住民や来訪者の皆さんも鳴門市の実情に応じた利用をされていると思います。鉄道は基本的には幹線機能を有するので地域の旅客運送サービスの実情をもとに、サービスを変えることはできないことが多いのですが、JR 四国さんは熱心に鉄道サービスの工夫をされているような印象がございませう。パターンダイヤだけでなく、先般のダイヤ改正ではバスのサービスがダウンサイジングしてしまうようなところについて特急停車の増便や徳島県内では有名になっていますが共同経営の話です。当然、県と交通事業者さんとの間でよく練られてやってきた成果が今の交通サービスの維持に繋がっているところもあるとは思いますが、それだけではなく、ミクロな地域の声を徳島県さんが拾っていたことが、先般の共同経営に繋がっているのです、ぜひそうしたお声が JR さんに直接届くように協議会へお呼びいただいてもよいのかなと思いました。私はオブザーバーで、あくまでも意見の取り扱いはお任せしますけれども、そういった検討をしていただけるとよろしいかなと思いました。

- 資料 2 に戻りますが、計画策定スケジュールの第 3 回の協議会で、目標と評価指標を提示して施策も決定することになっていますが、地域公共交通活性化再生法では、計画の中に定量的な目標を入れることになっておりますので、目標設定するとそれに付随してどれだけの事業を実施するか当然議論する必要があります。それが 1 度の会議の中で同時に行われると議論し尽くせるのか不安なので、できれば目標について第 2 回の協議会で触れていただくなり、第 3 回の協議会の前に委員の皆さんに目標値を共有いただくなり工夫をしていただけると正確に議論ができるのではないのでしょうか。行政計画なので、何を優先してやるのか、どれに力を入れてやるのかという事業の優先順位を議論する必要があるのです、優先順位づけ等も含めて、事業の目標値のようなものをできるだけ早く提示して、その上で施策についてご議論いただけるとよいのかなと思いました。

- 資料 3 の中で再編等、様々な課題が挙げられております。地域公共交通活性化再生法に基づいて、今回計画を策定いただくことになっていますが、この地域公共交通活性化再生法には法律に定められた事業がいくつかございませう。これらを活用いただくと、バスの補助金に関して国の特例がつくので、ぜひサービス変更を具体的に実施する場合はご活用いただければと考えています。徳島県さんの方ではすでに県全体でどのようにネットワークを再構築していくのか、その中で国の特例の活用可能性がないのかご検討いただいておりますが、よりミクロな

	<p>観点で鳴門市さんのご事情の中でニーズがあればぜひご活用いただき、公共交通の持続性を向上させるような取組みに繋がるのであれば国としても応援させていただきたいと思っています。その辺りは事業を目標にされても駄目ですが、具体的にサービス変更をどのようにするか明らかになった際に、活用可能な事業があればこちらから積極的にご紹介させていただきますのでご検討いただければと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門的な話をして難しい言葉も飛び交うと思いますが、交通利用者としていらっしゃる委員の方々にはぜひ色々なご意見をぶつけていただきたいなと思っておりますのでよろしく願いいたします。
東委員	<ul style="list-style-type: none"> ・手嶋さんがおっしゃるように JR がいないことが疑問でございます。昨日の都市マスの会議には、JR さんが出席されておりましたのでこちらにも当然出席されたほうが良いのではと思います。 ・市民に対してのアンケート結果では出ていないと思いますが、我々の方にご要望としていただいているのが、高速バスで高速鳴門まで来られたお客様が鳴門公園などの大型観光コンテンツがある中で、乗継が不便だというご意見です。そこで、昨日の都市マスの会議で勝手ながら高速鳴門を下りてすぐコンベンションがありますので、地域バスだけではなく我々路線バスも乗り入れられるようなロータリー整備を提案させていただきましたのでこちらでも共有させていただきます。
宮島委員	<ul style="list-style-type: none"> ・県の方では今、協議会を作って県版の地域公共交通計画を作っており、3月から4月にかけてパブリックコメントを実施し、この夏に策定予定になっております。 ・資料の3ページで1点訂正したいのが、事務局の方から次世代地域公共交通ビジョンを県で作成とご説明がありましたけれども、こちらは徳島県生活交通協議会という場で、国、県、交通事業者、市町村の皆様、もちろん鳴門市様も入っていただいて策定しているビジョンでございますので、そういった経緯で作られているものをご認識をよろしく願いいたします。
田村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・7ページのアンケート結果を見ると、「満足度も重要度も高くない」という結果が出ています。最後のページでは、特に気になるのは無料バス優待制度の廃止希望があることです。地域による不公平感があるためと意見が出ていますが、利用者の立場から考えると、既存の交通体系でカバーしきれないような利用者の思いがあるのではないかという気がしています。どんな形での改革が必要なのかというのは、具体的にはわかりませんが、抜本的な公共交通体系の改革を考えていかないと、このままの交通体系を改善していく形では利用者はついてこない

	のではないかと思います。
藤村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 11 ページについて、鉄道の便数がとにかく少ないと感じています。鉄道だけでなくバスも両方少ない。朝の 7 時台と夕方の 6,7 時くらいは多くはないが JR やバスを待っている人がいるんですがその時間帯以外はまずいない。それだけ利用者が減っているんですね。 ・ 12 ページにバスの小型化という意見がありますが、これを望んでいる方は多いです。大きなバスを走らせずに小さなバスでいいからある程度の時間がきたら走らせてほしいと思います。 ・ 少子高齢化によって体が不自由になってバス停まで行けず、タクシーを使う人が多くなっています。タクシーの運転手さんは優しく、いろいろな面で配慮をしてくださり、何回も利用しているとその人のことがよくわかってくるように感じられます。利用する方にとって優しい交通機関であってほしいと思います。

(3) 計画策定に係る各種調査について ※事務局より説明(略)	
発言者	要 旨
山中副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ この調査は非常に平板な調査で、何を指してこの調査をしているのかよくわからないのが現状です。ただ単に実態を把握するわけではなく、どんな施策を導入しようとしているのか、どんなコンセプトで鳴門市の公共交通を再生しようとしているのか明確にして調査をしてほしい。鳴門の場合、公共交通を使っている人はトリップ数でいうと多分 2% ないです。つまり 50 人に 1 人しか使ってないという状況で、あとの 49 人は不満を持っているかという、公共交通を使っていないという状況になっています。どうしても使わなければいけないときに、どんな不満を持つかという点に着目していかないと、改善点が見えてこない可能性があります。なので、もう少し視点を絞った議論をしておかないと、ただ単に実態を把握しただけでは何の議論も出てこない可能性があります。 ・ 特に市民調査でバスの状況を周知すると書いてあるんですが、それだけではほとんど意味がなく、むしろバスを使っていない人たちにどういう状況を想定して公共交通の改善案を問えばいいのか確認して欲しい。特に高齢化して、車を運転できなくなったらどうするのか。飲酒を伴う会合のときどうしてるのか等を確認しながらどんなサービスを

	<p>増強していくのか把握するという視点が要ると思っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • この調査からどんな視点で分析しようとしているのか見えないので不安です。調査して結果が出た後に、目標が出てくるのかということです。多くの公共交通計画では単純に今あるものを改善しますと目標に書かれてしまうんですが、私はパリの「市民が15分で買い物・病院に行けます」というような目標が正しい目標だと思っています。この市民アンケートは鳴門市さんがそのようなクオリティーの目標を書けるかどうかにかかってくると思うんです。どれくらいの時間でどこに行けるのが幸せなまちなのか分かるような対応を考えていただきたいと思います。 • 初回なのであまり細かなことを言わずに大まかな方向だけ伝えますのでぜひ考えていただきたいと思います。残念なことに、我々に調査票が確認できる状況が現段階のスケジュールではないので、できれば調査票を確認させていただきたいと思いつながらお話を聞いています。
手嶋オブザーバー	<ul style="list-style-type: none"> • 交通はあくまでも派生需要だと言われますが、まちなかへの外出など何か目的があって利用者さんは使われます。そうした中で、交通をどのようにしていくかは地域の活力をどうするかと同じようなことだと思いますので、山中先生がおっしゃったような、マクロな目標をどのように立てていくのか意識していただければと思いました。 • 例えば、先ほどの資料3、3ページのJRとの並行路線による再編候補や、バス路線の重複による再編候補は、公共交通計画の中でサービスの変更が必要かもしれない地域、または持続可能性を考えたときに利便性が高すぎる、または効率性が高すぎる、バランスが取れているかわからない恐れがある地域として挙げられていると思いますが、そこで利用者さんがどうやって使われてるのか調べるにあたって、欠如している情報があると思います。3ページで言うと、JRを使われている学生さんや利用者さんがどういったニーズを持って使われてるのか、バスだけではなくJRについても情報がないと、並行路線だからといって再編していいのか判断がつかないと思います。なのでマクロな地域戦略をどうするのかという目標設定に資するような調査項目とあわせて、交通のサービスを具体的に考えるにあたっては、バスだけではなく、OD調査だけではなく、利用目的等を把握していただくと思います。 • JRさんは少なくとも定期の利用者と定期外の利用者がどれくらいいるのかという程度のデータ量しかお持ちではないので、関係者がどんな情報を持っているのか、何をやる可能性があるのかをよく考えながら

	調査項目を立てていただけると後々有効に活用できる可能性も増えてくるのかなと思います。
前田委員	<ul style="list-style-type: none"> バス利用者の実態調査について、先日、バスがないと1人で買い物ができない利用者の切実な声を聞きました。買い物の荷物を持って乗り降りするのが大変だそうです。バスに乗るときに、補助をするようなことはできないのかと思いましたので、よろしく願いいたします。
谷会長	<ul style="list-style-type: none"> ありがとうございました。 他にご意見、ご質問ないようなので、事務局ではこれまでの委員さんの意見を参考にしまして、鳴門市地域公共交通計画策定に係る調査業務を進めていただきたいと思います。

5. その他	
谷会長	<ul style="list-style-type: none"> 本日の議事は終了いたしました。事務局から何か連絡事項等ございましたら、お願いしたいと思いますがいかがでしょうか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 本日は貴重なご意見ありがとうございました。ご意見を多くいただいた中で、JRさんの参画や今回のアンケートの内容につきまして現状のままでは厳しいのではないかとというようなご意見もございました。 皆様にたびたびお集まりいただくことは、難しいところもありますので、必要に応じて書面会議等も使わせていただきながら、会議を進めさせていただきまして、アンケート調査の結果や基本方針、また、早い段階である程度の目標を、というようなご意見もございましたことから、それらも踏まえまして次回の会議の方を設定させていただきたいと考えております。 次回の皆様が集まる会議につきましては、現状としては10月ぐらいというところで考えておまして、詳細につきましては、また開催が迫って参りましたら改めて皆様にご案内をさせていただきたいと考えておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。
谷会長	<ul style="list-style-type: none"> ただいま事務局から次回の開催につきましては10月ぐらいということで提案がございました。皆さんいかがでしょうか。現時点での案ということで、皆様に予定を調整していただくということで、お願いさせていただきます。 事務局は今の予定で作業を進めていただいて、改めまして1ヶ月前ぐらいには各委員の皆様方に、ご案内を通知させていただきますようお願いいたします。
山中副会長	<ul style="list-style-type: none"> 項目に載っている調査はそのまま進めていただいて結構だと思います

	<p>が、一番弱いところは施策の整理です。実際に各地で行われている公共交通の最新の施策を整理して、鳴門市にはどういものが適用できるのか検討していただきたい。資料にはバスのことばかり書いてありますけども、今はもう公共交通の施策ではバスにこだわっていないんです。もっと様々な施策が打ち出されていて、他にも福祉施策や個別の輸送施策として、例えば電動三輪のアシスト自転車を高齢者に配布している自治体もあります。これはおそらく公共交通施策ではありませんが、バスの利用に影響があると思うので、そういうものも含めてもう少し広く施策を取り上げていただきたいと思います。目標を立てたその上でこんな施策を導入していったらどうかということをお次回は是非とも出していただきたい。現時点ではその項目が抜けているような気がしますので、是非そこはしっかりやっていただきたいと思っています。</p>
谷会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ありがとうございます。それではただいまの先生のご意見も盛り込ませていただいて進めさせていただきたいと思います。 ・他に特にならぬようございましたら、本日の会議につきましては、これをおもちまして終了させていただきたいと思います。 ・本日は委員の皆様のご協力をおもちまして無事に地域公共交通活性化協議会を開催することができました。本当にありがとうございました。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・それでは以上をおもちまして、令和4年度第1回鳴門市地域公共交通活性化協議会を閉会いたします。本日はありがとうございました。

15時00分 閉会